

Information Session on ICT Systems and Tools for UTokyo Members (Conducted in English)

説明会資料日本語訳版

Part III: 東京大学での 教育活動に利用するシステム – UTALとUTOL

説明者: 雨宮智浩

情報基盤センター 教授

質問をslidoでお寄せください

このリンクにアクセスするか,

https://sli.do/ からアクセス

して以下のコードを入力

Outline

Part III:東京大学での教育活動に利用するシステム - UTALとUTOL

(はじめに)

- 1. UTAS
- 2. UTOL

(おわりに)

質問をslidoでお寄せください

このリンクにアクセスするか,

https://sli.do/ からアクセス

して以下のコードを入力

しはじめに

本パートではUTASとUTOLを紹介します

東京大学で授業を始める前に,次の3つのシステムに慣れておく ことをおすすめします

- UTAS (UTokyo Academic Affairs System) … 学務システム
 - シラバスの登録や成績の報告に利用
 - 大学として公式に記録すべきこれらの情報を取り扱う
- UTOL (UTokyo LMS) … 学習管理システム
 - お知らせの掲出,資料の配付,出欠の記録,課題の受付に利用
 - 授業期間中の教員と学生の情報交換を支援する
- Zoom …オンライン会議ツール
 - 東京大学で最も広く利用されているオンライン会議ツール

→ Part II

U はじめに

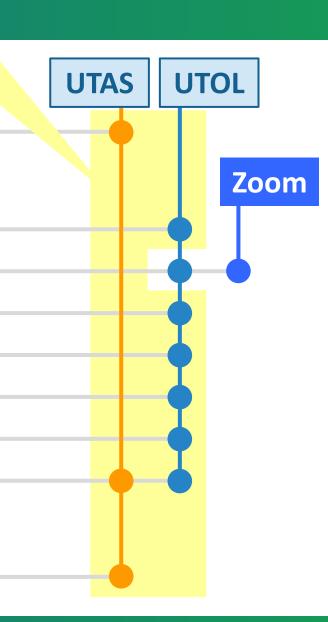
より詳しい内容は utelecon で確認できます



リ 授業の流れ

オンライン授業でなくても, 多くに共通して各システムを 使うことになります.

- 授業開始前
 - シラバスの登録
- 授業期間中
 - 授業時間外の学生とのコミュニケーション
 - オンライン会議の設定と会議情報の学生への周知
 - ・ 資料の配付
 - 出欠の確認
 - ・課題の設定,提出受付と評価
 - ・オンラインテスト
 - ・休講と補講の設定と学生への周知
- 授業期間後
 - 成績の報告



U 各システムへのリンク





URLをブラウザのブックマークに登録しましょう

UTAS 学務システム

(はじめに)

- 1. UTAS
- 2. UTOL

(おわりに)

質問をslidoでお寄せください

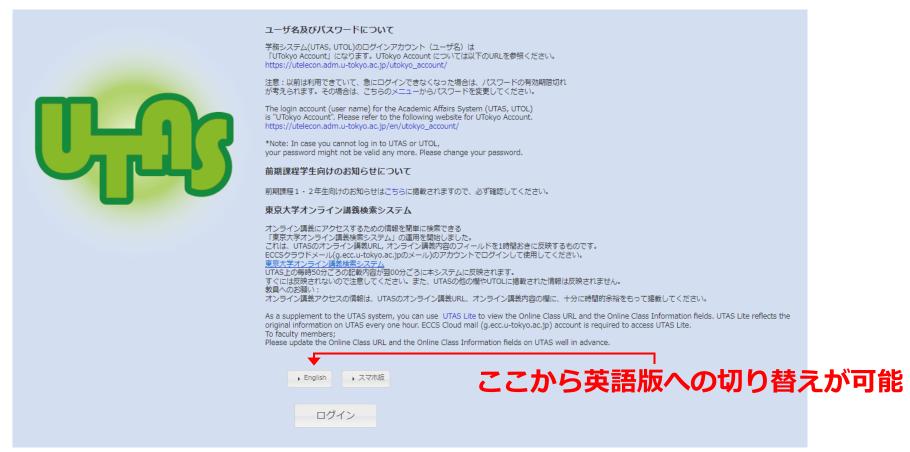
このリンクにアクセスするか,

https://sli.do/ からアクセス

して以下のコードを入力

U UTASにログインする

「ログイン」を押す UTokyo Account にサインインした状態でない場合には、 サインイン画面に移ります. サインインしてください.



https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/

授業担当教員がUTASでしなければならないこと

詳細は授業を開講する学部・研究科の指示に従ってください (入力の時期,内容,方法など)

1. 授業のシラバスを登録する

- 参照:シラバス作成のためのガイドライン (和/英)
- 参照: UTASマニュアル(教員) (現在は日本語版のみ提供) 32~47ページ

2. 授業の履修登録者一覧を確認する

参照: UTASマニュアル(教員) (現在は日本語版のみ提供) 7~12ページ

3. 学生に授業の成績を付与する

参照: UTASマニュアル(教員) (現在は日本語版のみ提供) 13~31ページ



授業担当教員がUTASでできること

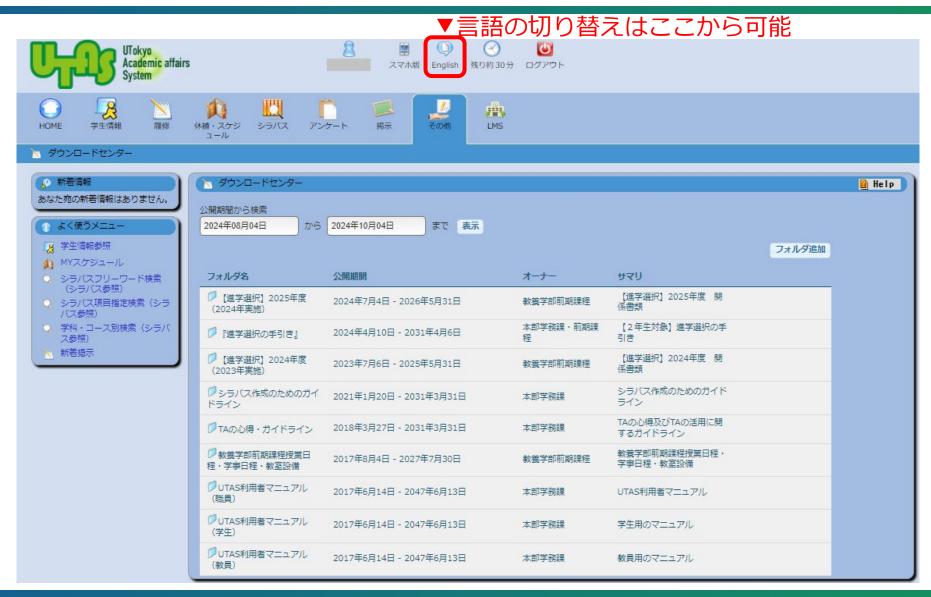
授業の開講関係

・授業の休講情報,教室変更情報,補講情報を登録する

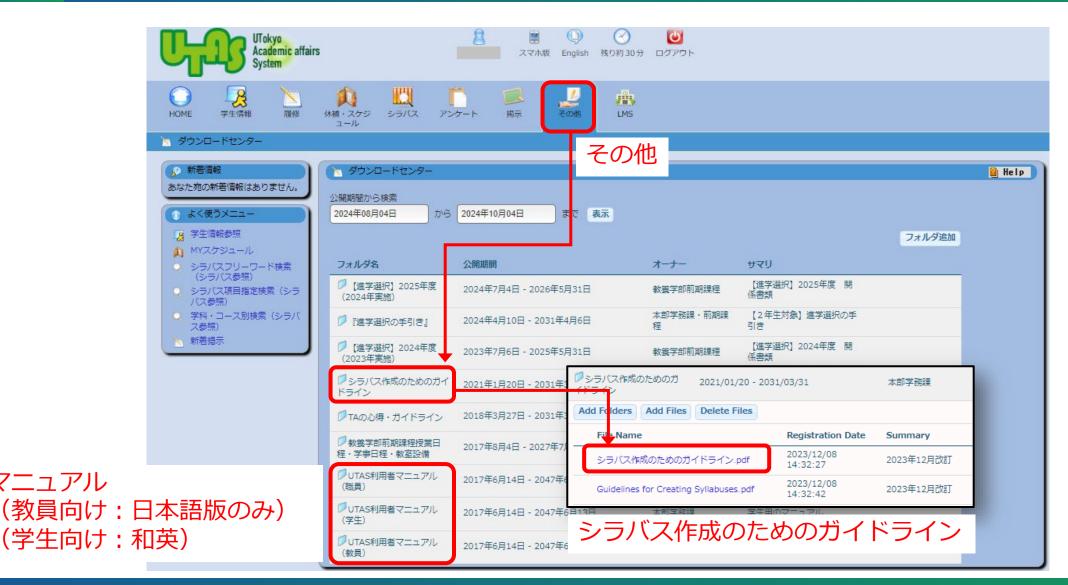
学生の研究指導関係

・指導担当学生の情報を閲覧する

UTAS:言語の切り替え(ログイン後)



UTAS:言語の切り替え



マニュアル

UTOL

UTokyo LMS(学習管理システム)

(はじめに)

- 1. UTAS
- 2. UTOL

(おわりに)

質問をslidoでお寄せください

このリンクにアクセスするか,

https://sli.do/ からアクセス

して以下のコードを入力

U UTOLへのログイン

「ログイン」を押す

UTokyo Account にサインインした状態でない場合には、 サインイン画面に移ります. サインインしてください.



https://utol.ecc.u-tokyo.ac.jp/



授業担当教員がUTOLでしなければならないこと

1. UTOL を利用するかどうか決める(シラバスにもその旨を反映)

LMS を利用する場合は UTOLの利用を推奨しています

2. UTOL を利用する場合, 登録の制限を設定する

(「履修者範囲」の設定)



LMS (学習管理システム) としての UTOL の利用推奨

- UTOL は全学向けの LMS ですが,教員に対して利用が必須と されているわけではありません
 - 対面での開講の場合, LMS を利用せずに授業をおこなうこともできます
 - 一部の教員は ECCS クラウドメールで提供されている Google Classroom を使っています
- しかしながら,**UTOL の利用を推奨しています**
 - 学生にとってはシステムが統一されていることが望ましいです。
 - 受講する授業によって利用するシステムやツールがバラバラだと, 学生に混乱を生じさせてしまいます!
 - 担当教員とTAは、登録している学生と、お互いのメールアドレスを知らなくても連絡を取ることができます



UTOLでの登録の制限とは





履修範囲設定の詳細

履修者範囲設定 UTASでの履修登録期間が UTASでの履修登録期間が 終わるまで 終わって以降 常に『登録方法によらず全 授業開講期間の前か途中かを問わず、出席を希望する学生 て』 は誰でも登録が可能 **履修確定日に**『登録方法によ らず全て』から『履修登録・ 条件を満たさない学生は 担当教員登録のみ』に**自動切** 履修登録期間末に強制的に登録解除 替 常に『履修登録・担当教員登 ・UTASで履修登録している学生 録のみ』 ・担当教員が直接登録した学生 のみ

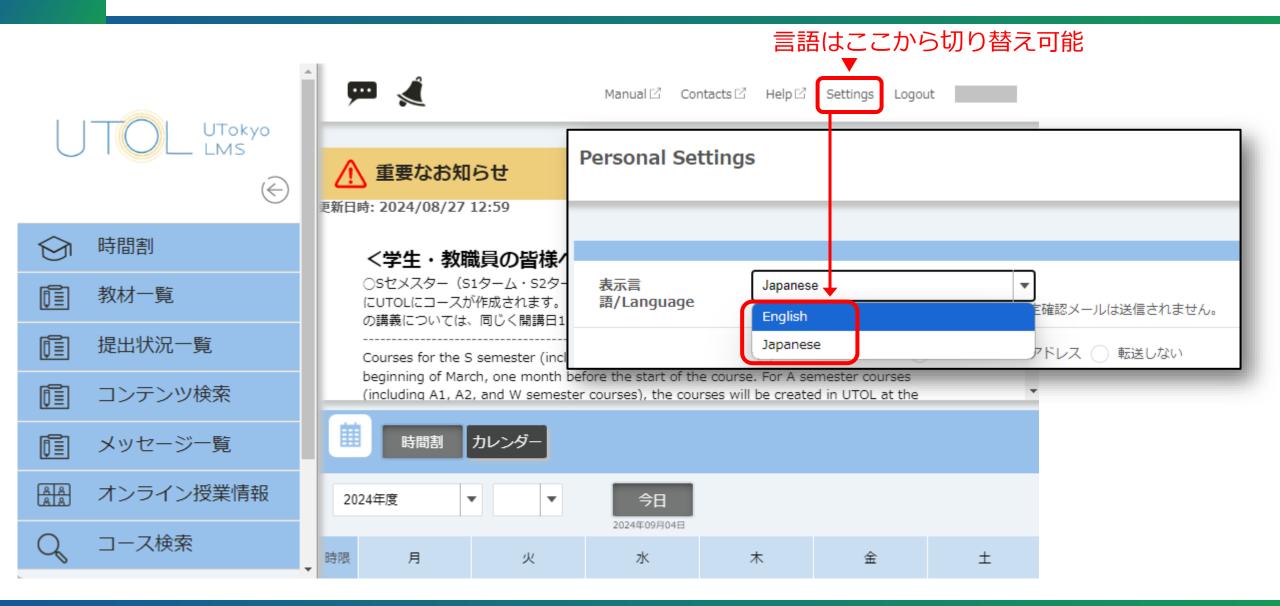
授業担当教員がUTOLでできること

- (授業に学生を招待(登録)する)
 - UTASに登録された学生のみ許可し、講師が手動で招待しなければならない 学生がいる場合のみ許可する
- ・ 学生に資料を配付する
- 学生にオンライン授業の情報を知らせる
- 登録している学生やTAとのメッセージ(または全体通知)の送受信
- ・課題の作成し、共有し、提出させ、評価する
- ・出席を取る
- フォーラムでの意見交換
- 更新通知を受信する
 - メール, LINE, UTokyo Slack を通じて可能

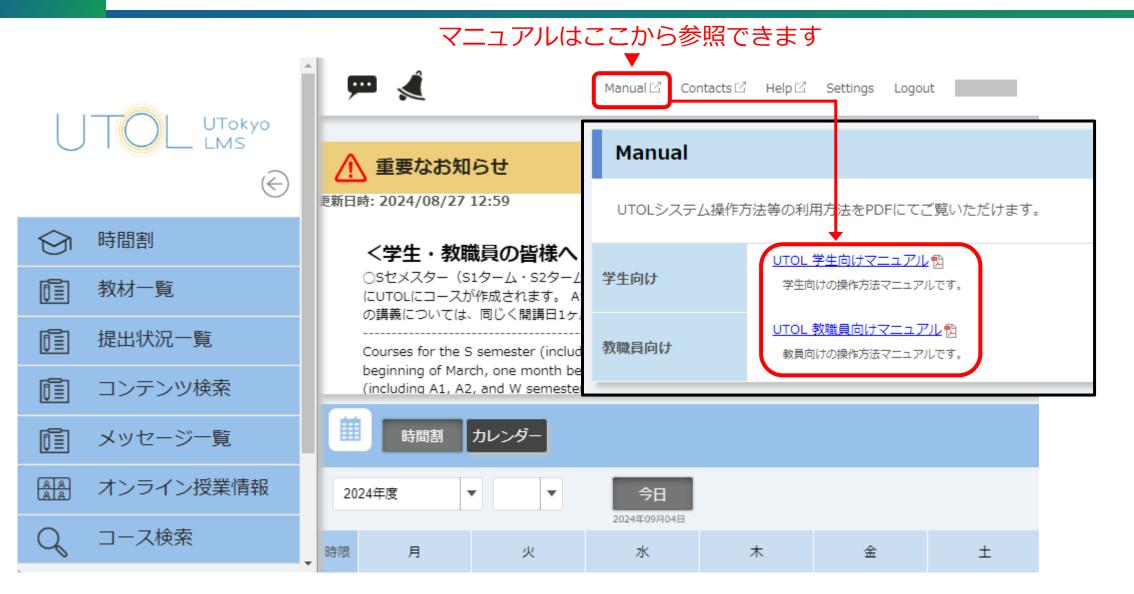
UTOLに関していただいた質問

- Q1. ライティングのクラスを教えています. 学生の成果物に素早くコメントするのは簡単ですか?
 - 指導者はUTOLでフィードバックコメントを登録することができます。こちらも参照してください: UTOLマニュアル 75-78ページ
- Q2. 1つのコース内で学生をグループに分けることはできますか. グループごとに異なる 課題を割り当てたいです.
 - はい、「ユーザーグループ設定」をクリックしてください。こちらもご覧ください: UTOLマニュアル 215-219ページ
- Q3. フィードバックシートやドキュメントを特定の学生個人に対してアップロードする ことはできますか?
 - はい、メッセージをご利用ください。こちらもご覧ください: UTOLマニュアル 49-57

UTOL: 言語の切り替え(ログイン後)



UTOL: 詳細マニュアル



U UTOL についてより詳しくは

utelecon の UTOL についての記事 (和英)

- 教員向け https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/utol/lecturers/
- 学生向け https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/utol/students/

UTokyo Portal の UTOL についての記事 (日本語のみ)

• 職員向け https://univtokyo.sharepoint.com/sites/utokyoportal/wiki/d/UTOL.aspx

参考資料(2024年3月実施の説明会資料およびその英語訳版) ※準備中

Summary

Part III:東京大学での教育活動に利用するシステム
– UTALとUTOL

(はじめに)

- 1. UTAS
- 2. UTOL

(おわりに)

質問をslidoでお寄せください

このリンクにアクセスするか,

https://sli.do/ からアクセス

して以下のコードを入力

U おわりに

- 東京大学では、2020年の完全オンライン化以降、授業での情報システムやコミュニケーションツールの利用が急増
 - その後,対面授業への回帰がかなり進んでいるが,情報システムやコミュニケーションツールの活用は2019年以前と比べて大幅に増加
- 教室での情報システム利用のための環境整備も進んだ
 - Wi-Fiが教室に整備され、学生は自分のノートPCやデバイスを授業に 持ち込むようになっている

対面授業でもオンライン授業でも,情報システムを有効に活用していきましょう!